

【日本医科大学付属病院 がん化学療法レジメン】

≪無断転載禁止≫

レジメン番号：CRC-113

対象疾患	レジメン名称	コース期間	総コース数	適応	催吐 リスク	根拠
大腸がん (RAS野生型)	Cmab + CPT-11 (Cmab : weekly)	49日間	規定なし	☒ 進行/再発 ☐ 術後補助化学療法 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 放射線併用化学療法 ☐ その他	中	N Engl J Med 351: 337-345, 2004 J Clin Oncol 26: 2311-2319, 2008

	薬品名	投与量	投与 経路	投与 時間	Day													
					1	～	8	～	15	～	22	～	29	～	36	～	43	～
①	デキサート ポラミン 生理食塩液	6.6mg 5mg 50mL	点滴静注	5分	↓		↓		↓		↓		↓		↓		↓	
②	生理食塩液	50mL	点滴静注	5分	↓		↓		↓		↓		↓		↓		↓	
③	アービタックス 生理食塩液	400mg/m ² 500mL	点滴静注	120分 (初回)	↓													
	アービタックス 生理食塩液	250mg/m ² 250mL	点滴静注	60分 (2回目以降)			↓		↓		↓		↓		↓		↓	
④	生理食塩液	100mL	点滴静注	60分	↓		↓		↓		↓		↓		↓		↓	
⑤	パロノセトロン 生理食塩液	0.75mg/50mL 50mL	点滴静注	15分	↓				↓				↓					
⑥	イリノテカン 生理食塩液	150mg/m ² 500mL	点滴静注	90分	↓				↓				↓					
⑦	生理食塩液	50mL	点滴静注	5分	↓				↓				↓					

<注意事項/備考>

- ✓ Cmab：初回400mg/m²を生食500mLに溶解し2時間かけて投与、2回目以降は250mg/m²を生食250mLに溶解し1時間かけて投与
- ✓ Cmab投与後の経過観察時間について：経過によっては省略可（生食50mL 5分に変更）
- ✓ 検査：定期的な血中Mg値のモニタリングを（適宜Mg補正を）
- ✓ インフュージョンリアクション（Cmab）：初回から2回目に発現することが多い。悪寒、発熱、呼吸困難など。必要に応じて抗ヒスタミン薬やステロイド剤の投与
- ✓ ざ瘡様皮疹（Cmab）：比較的早期から生じる。スキンケアや保湿剤で予防を。必要に応じてステロイド剤の使用
- ✓ 爪囲炎（Cmab）：遅発性（1か月後～）に生じることが多い。疼痛、爪の発達障害など。洗浄を行い、必要に応じてテーピングや外用ステロイド剤を

✓ 下痢（CPT-11）：急性症状（コリン様症状、前投薬に抗コリン薬併用などの検討）と慢性症状（活性代謝物による粘膜障害、必要に応じてロペラミドの検討）

:>>

49

